

# 「年輪」



No.853

No.853 令和4年(2022)2月7日(月) 2022-6号  
発行責任者:院長 澤田勝寛  
isonare@ka2.so-net.ne.jp

## ◆コロナ関係 ～オミクロンの特徴～

オミクロン感染は拡大の一途で、日本での1日感染者数が10万人を越える事態となりました。

感染拡大の一因としてオミクロン株の生存期間が長いという報告があります。京都府立医大の広瀬助教の発表は下記の通りです。

皮膚表面での生存時間は

**武漢株9時間、デルタ株17時間、オミクロン株21時間**  
プラスチックでは

**武漢株2.3日、デルタ株4.8日、オミクロン株8日**

コロナの感染様式は、飛沫感染と接触感染であり、マスクで飛沫感染を防ぎ、手洗いと手指感染で接触感染を防ぐようにしています。オミクロン株の生存期間を考えると、接触感染の機会が高まっていると考えられ、今まで以上に手洗いと手指消毒に気を付けることが必要だと思いました。

尾籠(びろう)な喩えではありますが、オミクロン株をを匂わないウンチだと思うとどうでしょう。トイレトーパーホルダー、ドアノブ、色々なスイッチ、手すりにウンチが付いており、それに触れたとすると、誰もが一生懸命手洗いをすると思います。普通のウンチは特に害はありませんが、コロナは重篤な感染を引き起こすのです。手洗い・手指消毒を励行しましょう。



## いい言葉 晩晴(ばんせい)を尊ぶ

人間は晩年になればなるほど晴れ渡り、残照で周囲を照らすような生き方なさいという、孔子の言葉です。人生は上りと下りがあり、無事に下って終結します。余裕もなく汗だくになりながら登ってきたのが上りの人生。下りの人生では、小鳥のさえずりや川のせせらぎに耳をかたむけながら、本心良心に背かず、とりこし苦勞はせず、日々内省し、何事にもベストをつくり、愉快・軽快・爽快に、人に役立つことが「晩晴」につながるのではと思っています。

## ◆今週の院長予定

2月7日	月	8:00運営会議、17:30医局会							
2月8日	火	9:00外来、14:00手術、17:30業務改善委員会							
2月9日	水	午後 松江校とりモート会議							
2月10日	木	9:00～10:00来客、11:00若宮神社初午祭、16:15神戸校運営委員会							
2月11日	金	建国記念日							
2月12日	土	9:45新須磨クリニックで健診業務、14:00介護の家往診							

## ◆虫媒花、風媒花、人媒花

2003年MRSAによる院内感染が問題になっていた時に、職員向けに書いた原稿です。

\*\*\*\*\*

院内感染が問題になって久しい。どんな問題か。多発することの問題と責任問題である。

原因は色々ある。患者が最初から保菌者の時もある。患者が保菌者でないとき、感染が起これば、院内で感染したということになり、責任が問われることもある。患者が保菌者であるかどうかは判断しにくい。入院患者全員に細菌検査をすませてから、入院させることも出来ない。

常在菌であっても抵抗力の落ちている患者には病原性を発揮するといっても言い訳は出来ない。感染発生を減らす努力をしなければならない。

そもそも、感染の媒体となるのは医療従事者が多い。直接多くの患者に接するため、その指先に爪の中に細菌が付着する。鼻の穴にもはびこることがある。それを取り除かず、他の患者に接することで感染を拡げる。

手洗い励行につきる。手に便や血液が付着するとすぐに洗うが、見えない細菌はついつい見逃され、水道の激流に流されることなく生き延びる。そして、白衣、ドアのノブ、ボールペン、回診車、絆創膏に付着する。

細菌は人を媒体にして拡がっていく。虫媒花、風媒花、ならぬ人媒花のようなもの。

患者さんに触れるのも、機材に触れるのも、すべて我々のこの手である。とにかくこの手が清潔か不潔か、病原菌に汚染されているか否か、いつも考えてほしい。

\*\*\*\*\*

細菌をコロナに読み替えると今の現状がよく分かります。MRSAによる院内感染が大問題になったことが遠い昔に感じるほどのパンデミックだと改めて思いました。

左欄に書いたオミクロンの特徴と合わせて参考にしてください。